

未来ビジョン(いわき31万人の まちづくりビジョン策定プロジェクト)について



いわき市 総合政策部 政策企画課

未来ビジョンについて

目的

- 誰もが「住んで良かった、住み続けたい」と思える魅力にあふれたいわきが向かうべき将来の姿を、市民の皆様と共有し、市民が主役となるまちづくりを進めていくため。

活動内容

- 地域の主役は市民一人ひとりであり、その声に真摯に耳を傾け、市民の皆様と共に、多様な価値観を反映した未来像を描くことが極めて重要と考えています。
- そのため、市の将来を担う若い世代が主体となって、地域の主役である31万人の市民の皆さま一人ひとりのこえに耳を傾けながら、市制100年目までを見据えた「未来ビジョン」を市民の皆様と共に作っていきます。

これまでの活動状況①

ヒアリング調査

プロジェクトメンバーやワーキングメンバーが
様々な分野で活躍する団体、企業などへのヒアリングを実施。

令和8年1～4月

39件(団体等)

課題面

- ✓ 人口減少や少子高齢化に伴う人材不足・担い手不足を危惧する声が多い。
- ✓ 交通網の脆弱性を改善してほしいといった声も多い。

将来のいわき（まち）の目指す姿・願い

- ✓ 豊かな地域資源や特色のある地域性を活かしたまちになってほしい。
- ✓ 多様な世代が集まる場(居場所があるまち)があると良い。
- ✓ 多様性が受容され、誰もが暮らしやすいまちであってほしい。



これまでの活動状況②

しあわせ調査・ポリポリガブ

令和8年1月13日～2月20日

しあわせ調査 **2,574件**

- ✓ 30代は他の世代より、幸福度や生活満足度が低い。
- ✓ 医療・福祉、遊び・娯楽、移動・交通の充実を求める市民の声が多い。
- ✓ 住宅環境に関しては満足度が高い。

令和8年1月13日～2月28日

ポリポリガブ **403件**

- ✓ 全世代共通(特に若い世代)で「遊び・娯楽」を求める声が多い。
- ✓ 30～40代は「子育て」や「医療・福祉」、50代以上になると、「地域行政」、「移動・交通」、「公共空間」に関する意見が多い。



これまでの活動状況③

声集め活動

令和8年1月13日～2月20日

7,083件

- ・ 市内小・中学生への配布
- ・ 様々なイベントでの活動（いわきFCホーム戦、成人式など）
- ・ 市内スーパーでの投函箱設置
- ・ 本庁舎1階でのブース設置 など



- ✓ 全世代共通で「感謝」を大切にしている。
- ✓ また、「生きる」や「楽しむ」といった視点を重視している。
- ✓ 「暮らしを楽しむ」や「まちを大切にしている」といった視点も多い。

(その他の声の傾向)

- ・ 安心安全な暮らしを望む
- ・ 若い世代は遊ぶ場所を望む
- ・ 大人は子供や家族の将来を願う



これまでの活動状況④

先人へのインタビュー

令和8年2月～3月

5人

市政やまちづくりを支えてきた皆様

- ・岩城 光英 氏（元市長）
 - ・飯本 丈夫 氏（元市職員）
 - ・吉田 隆治 氏（元新聞記者）
 - ・里見 潤 氏（経営者）
 - ・玉手 匡子 氏（いわき市立図書館アドバイザー）
- 30年前の「いわき未来会議」メンバー

- ✓ それぞれの地域の特性、個性、独自性を発揮させていくためにはネットワークが重要。
- ✓ 広域性、多核性、多様性がいわきの本質。それぞれを十分に引き出す必要がある。
- ✓ これからの時代は定住人口だけでなく、外部と関わる関係人口が重要。
- ✓ 官民一体でいわきの将来を考えるようなシンクタンクを復活させてほしい。
- ✓ これからの時代に合った新しい住民参加型のまちづくりの仕組みを考えてほしい。
- ✓ つながりを持って、意見を出し合い、たたき合うような議論の場が必要。
- ✓ いわきは地域それぞれの特性がある。もう一度、歴史の学び直しが必要。



これまでの活動状況(勉強会)

勉強会

令和8年2～6月

5テーマ 7回 216名

テーマ	講師
【歴史】いわき市の成り立ちと歩み(3回)	地域史研究家 小宅 幸一 氏
【聞き方】話の引き出し方・発想方法	放送作家 倉本 美津留 氏
【共創】ビジョンの意味・策定プロセス	実業家 野村 恭彦 氏
【言葉】まちづくりと言葉	「まち言葉でできている」著者 西本 千尋 氏
【施設】公共施設とまちづくり	東京都立大学 都市環境学部 讃岐 亮 氏



リサーチ結果等を踏まえたビジョン検討の土台(想い・目指すまちの方向性)

込めた想い(願い)

目指すまちの方向性

「固定された理想像」ではなく 「選び続けるプロセス」をビジョンに据える

～ 正解のあるまちづくりからの転換～

- ・ 答えは一つではない
- ・ 状況に応じて変わる
- ・ みんなで考え続けるもの

「参加」から「主体性」へ

～一人ひとりが「当事者」として関わるまち～

- ・ 自分ごととして関わる
- ・ 自分の役割を持つ

選択するまちづくり

～「維持」から「選択・再編」へ～

- ・ 選ばなければならない
- ・ 変化を受け入れる

まちづくり=制度や事業ではなく「関係性を育てる」

～「行政主体」から「関係性主体」へ～

- ・ 人と人のつながり
- ・ 支え合い
- ・ 関係性の重要性

「声」=を起点としたまちづくり

- ・ 話せること
- ・ 聞いてもらえること
- ・ 想いを共有すること

まちづくりとは、
一人ひとりの主体性を持った声を起点に、
関係性の中で、地域の未来を選び続けること

声によって未来を選び続けるまち

地域の特性を活かし、つながるまち

多様な挑戦が生まれ続けるまち

支え合いの関係が広がるまち

価値を受け継ぎ、未来へつなぐまち

これまでの活動状況(声集め②・ブラッシュアップ)

地区ワークショップ

令和8年5月16日～6月6日

13地区(14ヶ所)
292名

全地区・全世代対象



日時	開催地区	実績
5/16(土)	小名浜地区 (小名浜公民館)	28名
	常磐地区 (常磐公民館)	25名
	勿来地区 (錦公民館)	29名
	遠野地区 (上遠野公民館)	16名
5/23(土)	好間地区 (好間公民館)	21名
	四倉地区 (四倉公民館)	15名
	内郷地区 (内郷公民館)	28名
	久之浜・大久地区 (久之浜公民館)	24名
5/30(土)	三和地区 (三和ふれあい館)	20名
	田人地区 (田人公民館)	23名
	川前地区 (川前公民館)	7名
	小川地区 (小川地域活性化センター)	12名
6/2(火)	泉地区 (コンピュータ・カレッジ)	19名
6/6(土)	平地区 (Paix Paix)	25名
合計		292名

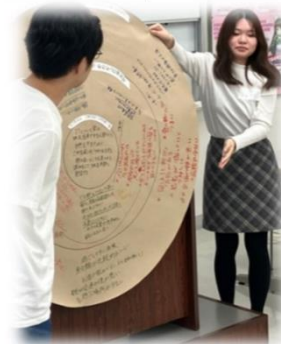
学生対象の取組み

令和8年6月

学生ワークショップ

5回(箇所) 164名

コンピューターカレッジ、福島高専
東日本国際大学、中学生ベースキャンプ、
医療創生大学



令和8年6月

高校への出前講座

3回(校) 507名

いわき総合、磐城桜が丘、いわき海星



地区ワークショップ・市民アンケート調査まとめ

いわきの 「良いところ」	・豊かな自然と温暖な気候への高い満足度 ・人情味あふれる温かい地域性 ・食の豊かさと独自の文化・観光資源 ・トータルバランスの取れた住みやすさ	いわきの 「気になるところ (課題)」	・人口減少と少子高齢化への強い危機感 ・交通インフラ・移動手段の脆弱性 ・若者向けの娯楽 ・働く場所の選択肢の不足 ・医療・福祉体制への不安 ・地域の活気低下
将来への 想い・願い	・若者が「戻ってきたい」「住み続けたい」と思えるまち ・多世代が交流しながら支え合うコミュニティの維持 ・誰もが移動することに困らないまち ・人口減少や災害などの困難に負けないまち ・自然や文化・歴史等の「強み」を活かした地域活性化	自分にできること	・日常的な地域貢献と「まずは挨拶・ゴミ拾い」 ・地域のイベントやコミュニティへの積極的参加 ・いわきの魅力の「発信者」になること ・地産地消による地域経済への貢献
総括	市民の声としては、いわきには、自然・食・人の温かさ・文化など誇れる特性がある一方で、人口減少や少子高齢化の進行への懸念や交通インフラの脆弱性や医療・福祉体制への不安など、課題を感じている。 ワークショップを通して、まちづくりへの関心の高さや次世代への継承を意識する声が多く、将来のまちづくりに向け、自分にできることを前向きに捉えている傾向が多くみられた。 まちづくりへのエネルギーを秘めている人財が多く、その活動機会や場が不足していることが将来のまちづくりへの課題と考えられる。		
ビジョンに必要な 視点 (キーワード)	■ ビジョンに必要な視点(キーワード)・共通項 ・ <u>関係性</u>: 人のぬくもり、笑顔、つながる、支え合い、多世代共生 ・ <u>次世代・時間軸</u>: 住み続けたい、次世代、子供たち、つなぐ ・ <u>主体性</u>: 自分にできること、参加する、発信する、身近なところ ・ <u>環境・風土</u>: 温暖、海と山、適度な田舎、フラ、温泉、安心・安全 ・ <u>変革・挑戦</u>: 移動の利便性向上、活気、ワクワク、挑戦 → 人の温かさを活かす視点 → 次世代に向ける・つなぐ視点 → 自らが行動する意欲(エネルギー)の視点 → 温暖で住みやすい、豊かな資源を大切にする視点 → 課題を解消しアップデートしていく視点		

未来ビジョン素案(メインメッセージ・ステイトメント)

わたしの「こえ」が、まちになる

今から60年前、14もの市町村が合併し、日本一面積が広い市として、いわき市は産声を上げました。

いわきは「多核(たかく)」のまちです。

小さな核が分散し、それぞれの地域が歴史や文化を持ち、合併してひとつの市になってもなお、多様な個が混じり合う。

まさに「潮目の海」のような豊かさをかたちづくってきました。

その豊かさを支えるのは、わたしたちの小さな声、聲(こえ)、こえ。

日々のあいさつや声かけ、こうありたいという祈り、なげきやつぶやき、ハンドサインや心の震えも、

小さな「こえ」となって、潮目をつくっています。

そしてなにより、こんなまちにしたい、これを守りたいというわたしたちの「こえ」が、まちをつくってきました。

まちづくりとは、小さなこえの重なりの上に生まれ、未来へとつながっていくものです。

わたしの「こえ」が、まちになる。

それは、わたしたちの小さな決意です。

わたしたちは、こえをつなぎ、今にいどみ、くらしを守ります。

声にならない「こえ」を見逃さないよう目を凝らし、耳を傾けつづけます。

わたしたちのこえがつながり、そのこえがだれかの挑戦を支え、それぞれのこえが守られ、響き合っていくことができれば、
きっとその先に、だれもが住んでよかった、住みつづけたいと思える、そんなふるさとが続いていくと思うから。

わたしの「こえ」が、まちになる。

それが、私たちの未来です。

未来ビジョン素案(全体像)

メイン
メッセージ

市民活動や
政策の土台
としたい
4つの
アクション
(私たちの
目指す姿)

ビジョン実現
に向けた
市の取組み

わたしの「こえ」が、まちになる

きく

だれもが声を上げられるよう、お互いの個性や違いを尊重し合い、
小さな声に耳を傾け、その声を受け止める

つなぐ

人も地域もつながり合い、
そのまちらしさを磨き
地域ならではの歴史や文化、
そして地域への愛着を
次の時代へとつなぐ

いどむ

どんな変化があっても
正面から向き合い
どんな小さなチャレンジにも
声を掛け合って
今に、そして未来にいどむ

まもる

大きな災害を経験した
いわきだからこそ
支え合い、助け合いの
気持ちを大切に
命とくらし、
そして個人の尊厳をまもる

市の今後の取組み